





施設名	「白竹堂」(株式会社山岡白竹堂)
住所	京都市中京区麩屋町通六角上ル白壁町448番地
連絡先	・TEL : 075-221-1341 ・Website : http://www.hakuchikudo.co.jp/ ・オンラインショップ : http://www.hakuchikudo.jp/
施設情報	・京都本店(「住所」参照) : 1Fショップ、体験スペース 営業時間 : 10時~18時まで 水曜定休(但しシーズンにより異なる) 体験プログラム : 絵付け体験(1時間程度・2100円~)、投扇興体験(2500円) ・本店以外に、祇園店(四条通北側、八坂石段下)、三条寺町店(寺町三条交差点)あり。
客層	主軸は国内客。外国人観光客もどんどん増えてきている。法人受注もある。
研究会ねらい	扇子作りの体験を通じて、外国人に人気の竹材を使用した日本の伝統工芸品の理解を深める。
研究会様子	<p><参加人数> 10名(宿泊施設事業者、旅行会社、通訳案内士、運輸交通事業者、伝統産業事業者、会議運営事業者)</p> <p><会社概要> 約300年の歴史がある扇子の老舗。竹を原材料とした風を起こして涼を取る道具として今日まで作られてきた。また飾り扇子などの観賞用の扇子も作られている。 白竹堂では伝統的な扇子からコンテンポラリーなデザインのものまで製造・販売されて、常に新しい扇子作りにも挑戦されている。近年では外国人にも持ち運びしやすい日本らしいお土産として人気がある。</p> <p><その他> 実際の商品、資材について説明。また製作工程を扇子作りの体験、デモンストレーションで説明をうける。扇子購入に訪れる外国人観光客についての対応なども説明あり。</p>
意見交換	<p><意見交換会> 以下は主なやりとり抜粋</p> <p>Q : 会議の参加者にオリジナルの扇子を用意したい。500本ならいつまでに連絡しないといけないか。 A : 1本でも500本でも行程数は同じ。本数とほとんど関係ない。例えば作る扇子が手作業を要求するものであれば時間がかかる。白竹堂は製造力が高いほどだと自負している。 オリジナルなら平均して1本でも500本でも1ヶ月ほしい。</p> <p>Q : ノベルティ扇子作る場合、もっともシンプルな扇子で500つとなるといくらになるか? A : 紙扇子、生地扇子比べるなら紙扇子のほうが少し安い。ものによるが単純な紙扇子で1000円/1本くらい。デザインをいただき、納品まで1ヶ月半が最速。それもシーズンによる。</p> <p>Q : 扇子は夏の商品だと思うが、冬は職人の方は何をしているのか? A : 次の商品の準備をしている。扇子を作るのは一年がかり。例えば上絵はデザインから何から色々やることがある。</p> <p>Q : 暑いと売れるのか? A : 春先が暑いと夏場売れる。また最近のエコブームも手伝って以前より売れている。 扇子は形から末広がり、「すえひろ」といわれ、母の日、父の日、お中元などギフトとして求められる。</p> <p>Q : お店を訪れる外国人の比率は?、どちらのエリアからが多いか?、どの商品が彼らに人気か? A : 2割くらい。中国、台湾が多い。北米からも多い印象。外国人は扇子を飾りとして使うイメージが強いらしいのですが、白竹堂では実用的なものが最近では売れる傾向。もちろん飾りになりそうなものも売れます。</p> <p>Q : お客様に良い扇子を勧めるポイントみたいなものがあるか。 A : 一部は外国で作っているものもあるので、外国人には京扇子をすすめるのはどうか。 京扇子とは京都、滋賀で材料・組み立てをしていること。京扇子の組合に属している事業者であること。この二つをクリアしないと名乗れない。商品に京扇子のタグがついている。原産地表示もしないといけないので、例えば中国製のものにはその旨の表示をしている。</p> <p>Q : きらびやかな飾り扇子を実用として使いたがる外国人がいるが、説明どのようにしているか。 A : 一応その旨を伝えているが、最終的には本人の好き嫌い。海外の方は体の大きな方が多いので飾り扇子で扇ぎたいという人も多数いる。</p>
研究会様子	 <p>山岡社長から直接扇子についてご講義いただく</p>  <p>扇子の中骨を地紙に入れる作業を体験。大苦戦。</p>  <p>店内様子。様々な種類の扇子が販売されています。</p>  <p>説明を受けながら実際に店内を拝見。</p>